令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- Ⅱ マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- Ⅲ スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- ▼ スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名 【 京都府立与謝の海支援学校 】

<スポーツ庁テーマ>

| 1実践テーマ | [I • V] |
|--------|--|
| 2実施対象者 | • 京都府立与謝の海支援学校 |
| | • 京都府立加悦谷高等学校、京都府立宮津天橋高等学校 |
| | ・地域の小学校・中学校 |
| 3展開の形式 | (1)学校における活動 |
| | ア 教科名(体育・特別活動) |
| | イ 行事名(京都府立加悦谷高等学校、京都府立宮津天橋高等 学校との陸上練習) |
| | ウーその他(部活動) |
| | (2) 地域における活動 |
| | アイベント名() |
| | イ その他 (地域の小・中・高等学校の児童生徒・教員 |
| | へのボッチャ実技講習) |
| 4目 標 | 【体育、特別活動、放課後部活動】 |
| (ねらい) | オリンピック、パラリンピックを契機とし、タグラグビーや卓球、 |
| | 体つくり運動等の様々な運動に取り組み、成功体験を積み、自己肯 |
| | 定感を高める。 |
| | 【京都府立加悦谷高等学校、京都府立宮津天橋高等学校との合同陸 上練習】 |
| | ・スポーツを通して、相手を思いやる気持ちを高め、友だちとの良 好な関係を築く。 |
| | 【地域の小・中・高等学校の児童生徒・教員へのボッチャ実技講習】 ・障害者スポーツ(ボッチャ)の普及を図る。 |
| 5取組内容 | スポーツを通じた、豊かなスポーツライフの育成(7月~3月) 【体育】 |
| | 体育の授業において、簡易化したタグラグビー、ボッチャを行う。 【特別活動】 |
| | ルールを理解し、友だちと一緒に卓球を行う。 【放課後部活動】 |
| | ・ルールを理解し、友だちと一緒に卓球を行う。 |
| | ・ 互いに切磋琢磨し、技術の向上を図る。 |
| | ・京都府立加悦谷高等学校、京都府立宮津天橋高等学校陸上部の練 |
| | 習に参加し、陸上競技に必要な基本的な身体の動かし方の習得を通 |

して、両校の交流を図る。 ・両校生徒が共に専門的なトレーニング方法を習得する。 【地域の小・中・高等学校の児童生徒・教員へのボッチャ】 • 障害者スポーツの普及を目指し、ボッチャの講習を地域の小学校 の児童・教員へ実施する。 【体育、特別活動、放課後部活動】 6主な成果 オリンピック、パラリンピックを契機とし、タグラグビーや卓球、 体つくり運動等の様々な運動に取り組んだ。その中で、スポーツを 行う上で大切な、健康な身体作りへの意識を高めるとともに、卓球 やボッチャ、タグラグビー等のスポーツの魅力や特性に触れること ができた。 【体育】 ・ボッチャを活用した授業の際、「友だちボールを拾う」「順番が回 ってきた友だちへ言葉を掛ける」等の様子があり、友だちとのコミ ュニケーションを通して集団スポーツの楽しさを味わい、良好な関 係も築くことができた。 また、体つくり運動や様々な体育の授業を通して、「できた。」「楽 しかった。」「またしたい。」などの意欲的な感想を聞くことができ た。ラグビーの中で比較的容易にできる、プレースキック、ボール を持って走る、トライする等の動きを取り入れたゲームを継続的に 行ったことにより、ラグビーのルールを学び、「ラグビー」という 言葉を覚え、「競技内容」の理解も図ることができた。それにより、 豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力の育成に成果が あった。 7実践において 【体育】 • 重度の障害がある生徒もオリンピックやパラリンピックが身近に 工夫した点 感じられるように、ラグビーのキックやトライ等の動きを取り入れ (事業の特色) た体育授業の展開や、ボッチャを使用した簡易ゲームを行った。ま た、「東京五輪音頭 2020」のダンスを踊り、オリンピック・パラ リンピックに興味関心をもつことができるよう、授業後に、使用し たダンス動画の URL を各学級に配布した。 8主な課題等 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点より、身体接触を 伴うタグラグビーの授業内容の変更や共生社会の形成等のテーマ に沿った「加悦谷高等学校、京都府立宮津天橋高等学校との陸上競 技合同練習会」とした。そのため、本校で重点を置いていたスポー ツを通じたインクルーシブ社会の構築や多様性を尊重する態度の 育成等のねらいに迫ることが難しかった。 「共にスポーツを通して交流する」ことをねらっていたため、リ モートなどで、他校との交流を行うことは難しかった。 9来年度以降の 【本校】 実施予定 引き続き、授業時間内においてオリンピック・パラリンピックの 種目や内容を取り入れた授業の展開を検討していく。今年度行うこ とができなかったタグを使用したタグラグビーの実施を検討して 61< 特別活動、放課後部活動の卓球の活動についても、様々な友だち と交流し試合を行い、卓球を通してコミュニケーションをとり、互 いに切磋琢磨し合い技術が向上するように活動時間を確保してい <。

【他校との交流】

・次年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より実施できるかは未定だが、京都府立加悦谷高等学校、京都府立宮津天橋高等学校との陸上競技合同練習会の開催、昨年度まで実施していた近隣小学校へのボッチャ講習会等について、関係校と連携を取り、実施を検討していく。

【特別活動(卓球カルチャー)・部活動(卓球部)】





【体育(ボッチャ)】



【体育(ラグビーボール、キックティーを使用した授業)】

